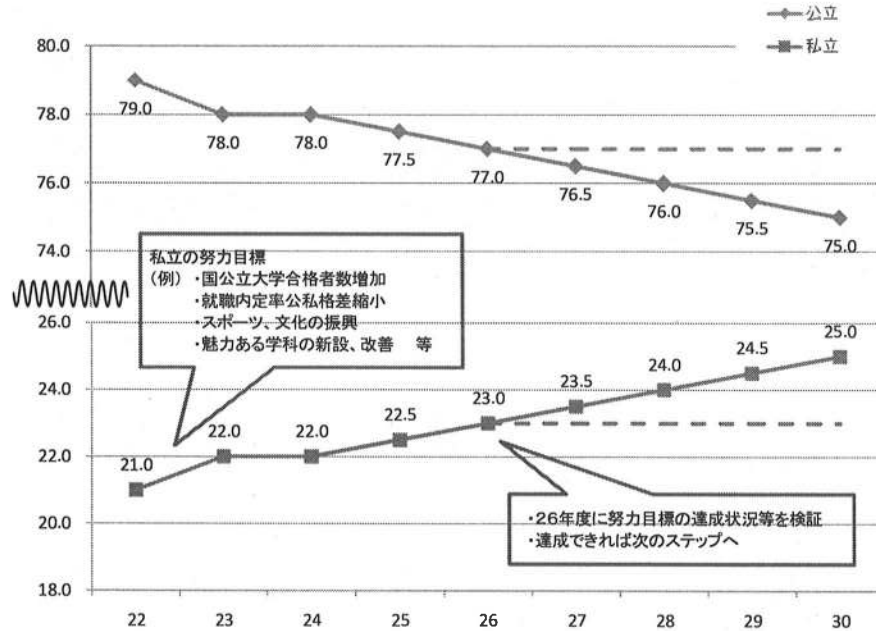


## 公私比率の改定について



入学年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
公私比率	公立	79.0	78.0	78.0	77.5	77.0	76.5	76.0	75.5	75.0
	私立	21.0	22.0	22.0	22.5	23.0	23.5	24.0	24.5	25.0
卒業予定者数(A)	11,891	11,130	11,315	11,296	11,008	10,883	10,767	10,874	10,412	

※卒業予定者数は、H21学校基本調査における各学年の生徒数により算出。

### 1 公私比率の状況

#### (1) これまでの推移

- ・S39～ 77:23
- ・S50～ 79:21
- ・H16～ 基本枠90% 79:21、自由競争枠10%(アンケート結果反映)
- ・H19～ 基本枠85% 77:23、自由競争枠15%(アンケート結果反映)

#### (2) H22年度の状況

- ・基本枠(85%) 77:23、自由競争枠(15%) 89:11 → 公私比率 79:21

### 2 見直しの背景

- ・少子化の進行により、中学校卒業予定者数が今後減少する
- ・特に、来年3月の卒業予定者数は、過去15年で最大の減少(▲761人)となる
- ・公立高校の授業料無償化に伴い、授業料等の負担格差が拡大している
- ・公私が切磋琢磨して入学者を確保する仕組みである自由競争枠の機能が低下している
- ・大分県における公立の入学定員の割合は全国及び九州各県に比べて高い

### 3 見直しの考え方

- ・自由競争枠を廃止し、75:25を目標に、公私が切磋琢磨する仕組みを構築する

### 4 見直しのポイント

- (1) 自由競争枠は廃止する
- (2) 平成30年度を目途に8年間で、75:25まで毎年0.5ptずつ改定する
  - ・23～26年度の当初4年間は、現行基本枠の77:23まで0.5ptずつ改定する
  - ・23年度は中学校卒業予定者数の大幅減少に対応するため、1pt改定のうえ1年据え置く
  - ・27年度以降は、努力目標の達成度を検証のうえ、75:25まで改定する
- (3) 私立に「魅力ある学校づくり」の努力目標を設定する
  - ・目標の達成度及び取組状況は3年毎に検証し、当初3年分は26年度に検証する
- (4) 「魅力ある学校づくり」の目標、検証の方法などは今後、公私で検討する

### 5 公私協の開催について

- ・次回の公私協は、中間目標検証年である平成26年度に開催する
- ・その後は、目標検証年の29年度に開催し、30年度以降の方針を検討する